

平成12年度

アイヌ語ラジオ講座 テキスト

7月▶9月

Vol 2

2000



講師のプロフィール



ほり えつ こ
堀悦子

- 1953年 北海道浦河郡浦河町姉茶に生まれる。
- 1972年 姉が阿寒湖に嫁に行ったのがきっかけとなり、その後二風谷で民芸品店をする合間に本を読んだり、行事に参加して興味を持ち始める。
- 1978年 浦河町姉茶に戻り、北海道ウタリ協会浦河支部、浦河ウタリ文化保存会に入会する。
- 現在、浦河ウタリ文化保存会副会長、ウタリ生活相談員として活動している。

協力者の紹介



うら かわ り う
浦川リウ

- 1921年 北海道三石郡三石町幌毛に生まれる。
- アイヌ語を母語とする祖母のもとで自然にアイヌ語およびアイヌ文化を身につける。
- 1939年 北海道浦河郡浦河町姉茶にお嫁に来る。
- 1960年 浦川タレフチを中心とした姉茶民芸品研究会の発足に携わる。
- 1981年 織布免許を取得し機動訓練講師を務める。
- 1989年 アイヌ語教室の発足に伴い講師として現在に至る。



とう やま さ き
遠山サキ

- 1928年 北海道浦河郡浦河町姉茶に生まれる。
満4歳の時に母が死に、アイヌ語を母語とするおばさんのもとで、自然にアイヌ語、アイヌ文化を身につける。
- 1960年 浦川タレフチを中心とした姉茶民芸品研究会の発足に携わる。
- 1981年 織布免許を取得し、機動訓練講師を務める。
- 1989年 アイヌ語教室の発足に伴い、講師として現在に至る。

ふじ むら ひさ かず
藤村久和（北海学園大学人文学部）

なか がわ じゅん
中川潤（北海学園大学非常勤講師）

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	回	日	テーマ
7月	1	2日	挨拶の言葉
	2	9日	食べもの（１）
	3	16日	食べもの（２）
	4	23日	山 菜
	5	30日	身を飾る
8月	6	6日	着る、履く、かぶる、はめる
	7	13日	病気と療法
	8	20日	薬と薬湯
	9	27日	木の実
9月	10	3日	ござあみ
	11	10日	物語や昔話
	12	17日	祖先供養と病魔除け
	13	24日	歌と踊り

表記法について

北海道ウタリ協会刊行の『アコロイタク』に準拠しているが、一部、浦河地方の言い回しを尊重し、採用している。

【浦河アイヌ語教室の活動について】

浦河アイヌ語教室は年20回行っております。日程は伝承事業や他の行事の合間を見て決めております。新しい試みにより、他より講師を招き、日常会話(文法)をおもに教えていただいています。

なお、詳しいお問い合わせ先は、次のとおりです。

堺町生活館

〒057-0033 北海道浦河郡浦河町堺町東1丁目6番
TEL(01462)2-5795

Lesson	1	挨拶の言葉
--------	---	-------

今日のポイント：挨拶の言葉

- 自 己 紹 介
- 町 の 紹 介

イカタイ

ikatay

おはよう、今日は、今晩は。

スイ ウヌカル アン ナー

suy unukar - an nā

また、 私たちは会いましょう ね。

スイ ウヌカル アン ノー

suy unukar - an nō

また、俺たちは会おう　な。



; 単語

- カンナ [また、再び]
- スイ カンナ [また]
- ウ [お互いに]
- ウヌカル [出会う]
- ナー [~よ、~ね]
- カンナ、カンナ [またまた、度々]
- カンナスイ [また]
- ヌカル [~に合う、~を見る、~が見える]
- -アン [私たちは、僕たちが]
- ノー [~な、~よ]

解 説

イカタイは本来、「久しぶりだね」、「^{しばら}暫くであったね」、「久しく会わなかったね」の意味だけど、日常の挨拶としても使います。

ただし、「○○君おはよう」とか「○○さん今日は」とは言いません。相手に向かって「おはよう」、「今晚は」と声をかける日本語の日常会話の使い方と同じです。



女性同士挨拶

MEMO



今日のポイント：食事を作る、調理する

- コンプシートの作り方
- チポルシートの作り方
- チタタブの作り方

ケラ アン(ナ)

kera an (na)

おいしい (よ)(うまいな)。

ケラ サク(ノ)

kera sak (no)

味が ない。

ケラ ウェン

kera wen

味が 悪い (まずい)。

ケラ ヌ

kera nu

味を　みる（味見をする）。



; 単語

- ケラ [味が]
- サク [ない、 欠く]
- ヌ [~がある、 ~を持つ]
- ルンヌ [しよっぱい]
- ケラピリカ [味が良い、 うまい、]
- ナー イパヤン [まだ、 お食べなさい]
- アン [ある、 存在する]
- ウェン [悪い、 良くない]
- オチャンペラッ [味がうすい、 あまい]
- トンペ [あまい (砂糖の)]
- ポロンノ イパヤン [たくさん食べなさい]
- ナーナー エヤン [もっともっとお食べ]

食事するときには、かぶり物をしていたらそれをはずします。食事のときに、女の人や子供などは「フーンナ」あるいは「ヒーンナ」という言葉を使い、これは、「いただきます」、「ごちそうさまでした」のどちらにも使えます。男の人は「イヤイライケレ」すなわち「感謝をします」という言葉を使います。



きんきのチタタブ

MEMO

 今日のポイント：山菜採取とその処理

- ウバユリのでんぷん
- キトビロ

オハウコフ (オハウエコフ)

ohawkop (ohawekop)

汁の実

キムン オハウコブ

kimun ohawkop

山の汁の実（山菜）

ピスン オハウコブ

pisun ohawkop

浜の 汁の実（海草）

オハウコブ	ポロンノ	クター	クス	エキムン	クオマン
ohawkop	poronno	ku - ta	kusu	ekimun	ku - oman
山菜を	たくさん	私は取る	ために	山へ	行きます。



; 単語

- キムン [山に生えている、山にある]
- ポロンノ [たくさん]
- クス [~のために、~ので]
- オマン [行く、行った]
- ピスン [浜に生えている、海浜にある]
- タ [取る]
- エキムン [山へ、山手へ]

山菜採取の時期は春先から秋末までですが、保存用の山菜は植物の種類によっても違いがあります。
6月～7月はそのさかりの頃となります。

しかし、その年の気温によっても時期がずれるので薪取りの行き来に、山菜の成熟度を観察しながら採取や保存時期を考えます。食料の乏しくなる秋末から翌年の春までに食べる量を考えて、採取できなければ飢えて死ぬことになるからです。



オオウバユリ

MEMO

This image shows a blank sheet of white paper with ten horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.



今日のポイント：身を飾る

• 鉢巻の結び方による吉凶の違い

クシピニ
ku・sipini
私は 身支度をする（私は身まかないをする）。

エシユク
e・siyuk
君は 晴着を装う。

チトムテブ
ci・tomtep
身を飾るもの（飾身具）

チエパヌブ（チパヌブ）	クシナ
ciepanup（cipanup）	ku・sina
鉢巻を私は（頭に）	結ぶ。

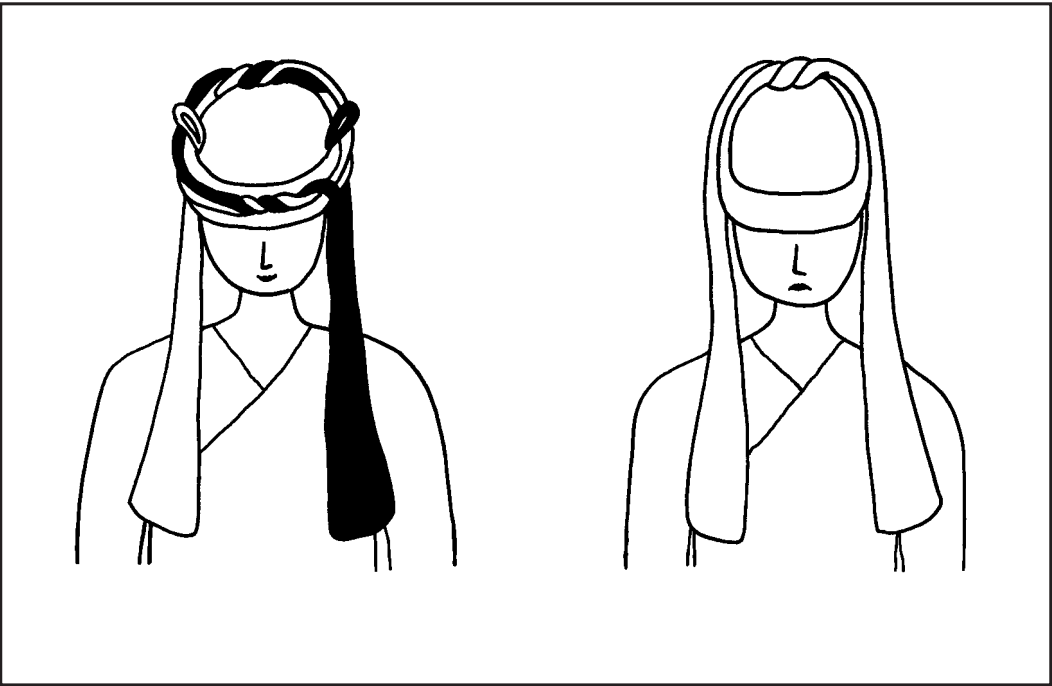
タマサイ	エムク
tamasay	e・muk
首飾りを	あなたは首にかけろ。

； 単語

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| ● シピニ [衣類などを着用する] | ● シユク [晴着や正装を装う] |
| ● チ・ [我々が～、私たちは～、わたしの～] | ● トムテ [輝かせる、光らせる] |
| ● ～ブ [もの] | ● シナ [しばる、結ぶ、結う] |
| ● タマサイ [首飾り] | ● ムク [首にかけろ、佩く] |

解 説

女性が頭に結ぶ鉢巻を「チエパヌブ」あるいは「チパヌブ」と言い、昔は黒布を使いました。男性が山や海に出かけて、狩猟や漁労の時に髪の毛を束ねる鉢巻を「マタンブシ」と言い、長さもタオルくらいのもので使いました。



熊送りに集まった人々

 今日のポイント：動きを表わす言葉

- 1人と2人以上との使いわけ

シケレベ	クウク	クス	エキムン	クマカン
sikerpe	ku - uk	kusu	ekimun	ku - makan
キハダの実を	私は採る	ために	山へ	私は行きます。

クッチ	アヌイナ	クス	エキムン	マカパン
kutci	an - uyna	kusu	ekimun	makap - an
コクワの実を	私たちが採る	ために	山へ	私たちは行きます。

シットウライヌ	クキ	ワ	シネンネ	クホシピ
sitturaynu	ku - ki	wa	sinenne	ku - hosipi
道に迷うことを	私は	して	1人で	私は帰ってきた。

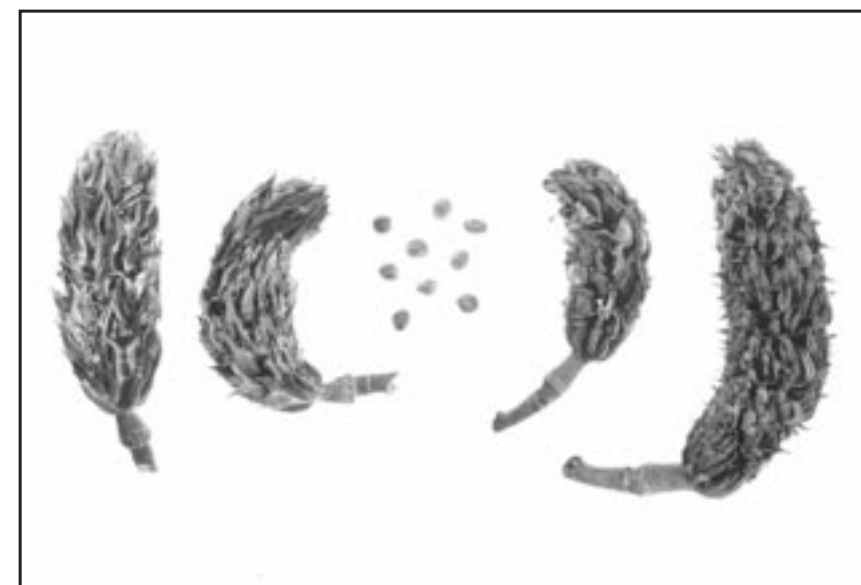
イオカケタ	エチホシッパ
iokaketa	eci - hosippa
そのあとで	あんたたちは 帰ってきた。

 ; 單語

- シケレペ [キハダの実]
- マカン [1 人が山に行く]
- アン・ [私たちが、我々は]
- マカブ [2 人以上が山に行く]
- ク・ [私が、僕は]
- エチ・ [君たちが、あなたたちは]
- ウク [1 人が採る (取る)]
- クッチ [コクワの実]
- ウイナ [2 人以上が採る (取る)]
- シットウライヌ [道に迷う]
- ホシピ [1 人で戻る (帰る)]
- ホシッパ [2 人以上が戻る (帰る)]

動きを表わす言葉には、ふつう同じ意味でも二つの言葉があって、それは1人で〇〇をするのと、2人以上で〇〇をするという使いわけがあります。しかし、中には飲む（クー）のように区別のない言葉もあります。

二つを使いわけ言葉もその形をみると似ているもの（マカンとマカブ、ホシピとホシッパ）と似ていないもの（行くのオマンとパイェ、来るのエクとアルキ）があります。



ハウの実

MEMO

This image shows a full page of white paper with ten horizontal dashed lines, typical of primary school handwriting practice paper. The lines are evenly spaced and extend across the entire width of the page. There is no text or other markings on the paper.

Lesson

10

ござあみ



今日のポイント：ござの用途

- ガマを採る時期
- ござの作成工程

イテセ	ポカ	クキ	クス	エンカスイ	ヤン（ハニ）（ヤナニ）
itese	poka	ku - ki	kusu	en - kasuy	yan（hani）（yanani）
ござ編み	でも	私がする	から	私に手伝って	おくれ。
ピコッ		アヌイナ	クス		
pikot		an - uyna	kusu		
ござ編み用の扁平な小石を	私たちは拾い取る	から			
ピタラ	パクノ	クルマ	アリ	イルラ	ワ イコレ
pitar	pakno	kuruma	ari	i - rura	wa ikore
川原	まで	自動車	で	私たちを連れていっ	て おくれ。

；単語

- イテセ [ござ編み]
- ポカ [~も、~すらも、~（で）も]
- カスイ [手伝う]
- ハニ [~するのよ]
- ピコッ [ござ編み用の扁平な小石]
- パクノ [~にまで]
- イ・ [私たちに、我々へ]
- イコレ [~して下さい、~しておくれ]

- イテセニ [ござ編み機]
- エン・ [私に、俺へ]
- ヤン [~しなさい]
- ヤナニ [~しなさいね]
- ピタラ [石の川原]
- アリ [~で、~でもって]
- ルラ [運ぶ、運搬する]

解

説

物作りの基本の一つに糸づくりがありました。オヒョウニレやシナの内皮を細く裂いて単に繋ぐものから、裂いたものに撚りをかけて撚り合せ、それも撚りのゆるいもの、きついもの、それに太さを使用目的を考えて作りました。

カエカ（撚り糸作り）は、女性の主要な日課となっていました。木を切り出して家を作るのは男の仕事でしたが、その木を組み合せ、ヨシズを張り、ヨシ束を葺くときの結束紐は全てが女性の手によるもののなのです。



ござ編みの様子

MEMO



今日のポイント：物 語

- 天界の神の物語
- スズメの神の物語
- 狼の神の物語

ヤイラブ	ネヤッカイ（イソイタク）		イソイタッキ	ネヤッカイ	クヌ	ルスイ	ナー
yayrap	neyakkay（isoytak）		isoytakki	neyakkay	ku-nu	rusuy	na
長編の物語	でも		昔 話	でも	私は聞き	たい	なあ。
タネ	エカシ	カ	イサム	クス	ヤイラブ	ヌー	カ
tane	ekasi	ka	isam	kusu	yayrap	nū	ka
今は	長老	も	いない	から	長編の物語は	聞くこと	も
イソイタッキ	ネヤクン	ポンノ	パテク	クイエ	エアシカイ		
isoytakki	neyakun	ponno	patek	ku-ye	easkay		
昔話	であったなら	少し	ばかり	私は言うことが	できる。		



；単語

- ヤイラブ [長編の物語]
- イソイタク [昔話]
- ヌー [聞く]
- タネ [今、現在]
- イサム [ない、いない]
- エアイカブ [~ができない]
- イエ [言う、話す]

- ネヤッカイ [~でも]
- イソイタッキ [昔話]
- ルスイ [~したい]
- ~カ [~も、~（で）も]
- ニウケシ [~しにくい、~できにくい、~がしにくい]
- ネヤクン [~であるなら（ば）]
- エアシカイ [~ができる]

解 説

ヤイラブ（長編の物語）は、男の人たちだけが炉縁のまわりに集まって炉縁を拍子木で打ちたたきながら、個々人の特有の節まわしにのせて語るもので、聞き手は息つぎに合いの手を時々入れます。

イソイタッキ（昔話）は、女の人たちが男たちとは別の場所（炉の下手）に集まって、お互いに次々と話していくものです。



バセオンカムイノミの時のハルアレの様子

MEMO

 今日のポイント：アイヌの儀式

- 祖先供養のやり方
- 病魔除けのやり方

ニサッタ	イチャルパ	アン	ハカイエ					
nisatta	icarpa	an	hakaye					
明日	祖先供養が	ある	と言ってるよ。					
ネヤクン	ソナピ	マラフト	エトコイキアン					ノ
neyakun	sonapi	marapto	etokoyki - an					no
だったら	お供え	物の	準備を私たちでしましょう					よ。
タント	オロ パクノ	ハルアレ	マラフト	ウモマレ	クキ	クス	ネ	ナ
tanto	or pakno	haruare	marapto	umomare	ku - ki	kusu	ne	na
今日	中に	病魔除けの	供物を	集めることを	私はする	から		ね。

 ; 単語

- ニサッタ [明日]
- ハカイエ [~ と言う]
- ソナピ マラプト [供物]
- タント [今日]
- ハルアレ [病魔除けの儀式]
- ウモマレ [集める、取りまとめる]
- クスネナ [~ するつもりだからね、~ するからな]
- イチャルパ [祖先供養]
- ネヤクン [だったら、それなら]
- エトコイキ [準備する、用意をする]
- オロ パクノ [~ までに、~ のうちに、~ 中に]
- マラプト [供物]
- キ [~ をする]

浦河のイチャルパ（祖先供養）は、神々を祭るヌサ（幣棚）と離れた場所で行ない、翌日にはそれ用に使ったイナウ（木幣）などを一まとめにして別の所に寄せ集めて、その魂をあの世に送ってしまいます。

また、供物を散布するときにはヨモギの茎を使います。昔は病魔除けを毎月行なって健康を願って祈ったものです。



イチャルパの様子

MEMO

This image shows a full page of white paper with ten horizontal dashed lines, typical of primary school handwriting practice paper. The lines are evenly spaced and extend across the entire width of the page. There is no text or other markings on the paper.



今日のポイント：アイヌに伝わる歌と踊り

- 歌の色々
- 踊りの色々

● 波浪の海の唄（かけあいで歌う）

アートゥイ	ソー	カ	タ	カイクマ	ソー	テルケ
atuy	so	ka	ta	kaykuma	so	terke

海 面の 上 で 兎が（海）面で はねている。
（海上には風が強く白波が立っている。それは、まさに白い兎が飛び跳ねているようである）

● 神様の降臨の唄（輪唱で歌う）

チュブ	カー	ワ	カームイ	ラン	イーワー	テキサム	オーレーウ
cup	ka	wa	kamuy	ran	iwa	teksam	orew

東の 方（の空）から 神様が 降りてきたよ。 巖の そば そこに止まったよ（その物音を）

イーワ	テキサム	カニ	マウ	ネー	チーヌ
iwa	teksam	kani	maw	ne	ci-nu

巖の そばで（涼しい）金属の 音色 として 我々は聞きました。

● 枝上の雪が落ちる唄（斉唱で歌う）

ニー	カ	タ	クイクイ	ハーチン	ナ	（ハーチルナ）
ni	ka	ta	kuykuy	hacin	na	（hacirna）

木の（枝の） 上 で（鳥が嘴で枝を）つえばむと 落ちてきた よ。

ウーパシ	コー	ネ	ルプ	ネ	ハーチーナ
upas	ko	ne	rup	ne	hacinna（hacirna）

（枝の上にあった）雪が 粉 となり（あるものは）魂 となって（地上に）落ちてきたよ。

● ヤブマメ握りの唄（一人で銘々に歌う）

エーハー	カームイ	チャッチャルケ	コーラチネ	アールキ	ナ
eha	kamuy	catcarke	koracine	arki	na

ヤブマメの 神よ。 散らばした ように （私の手元に）やっておいで よ。

エーハー	マメ	チャッチャルケ	コーラチネ	アールキ	ナ
eha	mame	catcarke	koracine	arki	na

ヤブ マメよ。 散らばした ように （私の手元に）やっておいで な。

● 大波の砕け散る唄（かけあいで歌う）

ホイ	ヤブ	ナー	ハーウェーウェー
hoy	yap	na	hawe（ha）we

ホイ（かけ声） ～が上陸してきた よ。 その音が その音が
（時化で大波が陸に上陸する勢いで押し寄せ、それが岸で砕け散って、ものすごい物音を立てている）

解 説

歌の文句は短いですが、その種類はたくさんあって、歌い方もかけあいや輪唱などで競いあいます。踊りにも昔は色々あったようですが、今日にその一部は伝承され、昭和59年1月に国の重要無形文化財の指定を受けました。



チャップイヤク（アマツバメ）の踊りの様子

●子守唄

アンコロ	ミッポ	イテケ	チシノ
an - kor	mippo	iteke	cisno
私の（かわいい）	孫よ	決して～するな	泣く（決して泣かないで）

モコル	モコル	モコル
mokor	mokor	mokor
ねんね	ねんね	ねんねしな。

モコル	シンダ	ラン	ラン
mokor	sinda	ran	ran
眠りの	揺り籠が（空から）降りに	降りてくる。（徐々に降りてくる）	

モコル	トット	ラン	ラン
mokor	totto	ran	ran
眠りの	お乳が（空から）降りに	降りてくる。（徐々に降りてくる）	

イテケ	チシノ	エチチシ	コ	クチシ	ペ
iteke	cisno	eci - cis	ko	ku - cis	pe
決して	泣かないで	あなたが泣く	と	私も（つらくて）泣く	ものを

エチハチャ	モンライケ	エチハボ	ユイタ	ナ
eci - haca	monrayke	eci - habo	yuyta	na
あなたの父さんは	働いてるよ。	あなたの母さんは	搦きものをしている	よ。

イテケ	チシノ	モコル	モコル	モコル
iteke	cisno	mokor	mokor	mokor
決して	泣かないで	ねんね	ねんね	ねんねしな。

タネ	エハボ	エッ	コン	ナ
tane	e - habo	ek	kon	na (kor na)
今に	あなたの母さんが	やって	くる	よ。

●シマフクロウの鳴き真似の唄（斉唱で歌う）

エッサーラ	フッフム	エッサーラ	サーウッサーラ	フッフム
essara	huthum	essara	sāussara	huthum
（フッフムがシマフクロウの鳴き声とされているが、意味は不詳）				

●アマツバメの鳴き真似の唄（かけあいであう）

ヘーヤ	チャク	ヘーヤク
heya	cak	heyak
（チャク、ヤクはアマツバメの鳴き声とされるが意味は不詳）		

●鳥の舞の唄

ホイヤオー	ホイヤオー	ホイヤオー	ヘッサー	オー	サーオ	ホイ
hoyyao	hoyyao	hoyyao	hessa	ō	sao	hoy

●晴れの儀式での唄（かけあいであう）

アララッサー	オー	ホイヤ	オー	ホイヤーッサーオー	ホイヤオー
ararassa	ō	hoyya	ō	hoyyassao	hoyyao

●晴れの儀式での唄（かけあいであう）

ホイヤオー	アトゥンケ	ホイアオー（ホイヤオー）
hoyyao	atunke	hoyao

ホイヤオー	ルールサン	ホイアオー（ホイヤオー）
hoyyao	rurusan	hoya (h) o

●晴れの儀式での唄（かけあいであう）

ハンロウッサー	ハンロー	ホイ
hanroussa	hanro	hoy

ホイ	ハンロウッサー	ハンロー
hoy	hanroussa	hanro